

令和7年度 /

決算状況をお知らせします

問 財政課 ☎ 086-803-1146



市では、積極的に行財政改革を進めてきた結果、財政指標は総じて健全に推移しています。

今後も、激甚化・頻発化する自然災害への対応としての防災・減災、国土強靱化に係る取り組みのほか、子ども・子育て施策の強化、団塊の世代が後期高齢者となったことに伴う医療・介護の体制整備、地域社会のデジタル化、脱炭素社会の実現に向けた取り組みなど、さまざまな財政需要が見込まれます。

このような状況に対応するため、引き続き行財政改革を推進し、将来世代に負担を先送りすることがないように、財源調整のための基金の残高を一定程度保ち、市債の残高や指標にも留意しつつ、財政運営の健全性を確保した上で、市民福祉の向上とまちの発展を実現していきます。



地方公共団体の会計は、基本的な経費を経理する「一般会計」と、特定の事業を経理する「特別会計」や「事業会計」に区分されます。ここでは、地方公共団体の財政状況を統一的に比較・分析するために用いる「普通会計」で、決算状況のあらましを説明します。

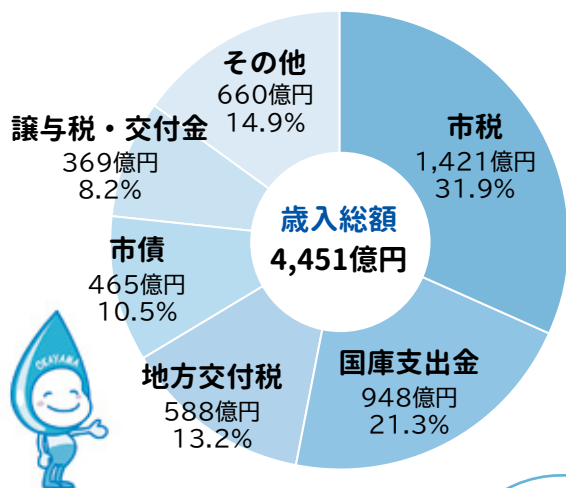


普通会計の歳入歳出



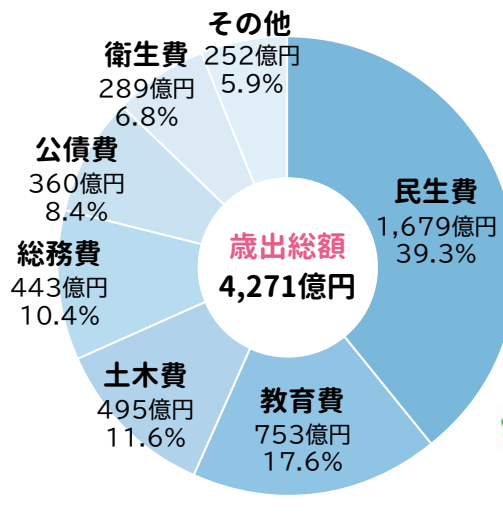
歳入

令和7年度の歳入決算額のうち、市民の皆さんに納めていただいた市民税・固定資産税などの市税収入は、1,421億円で歳入全体の31.9%を占めています。

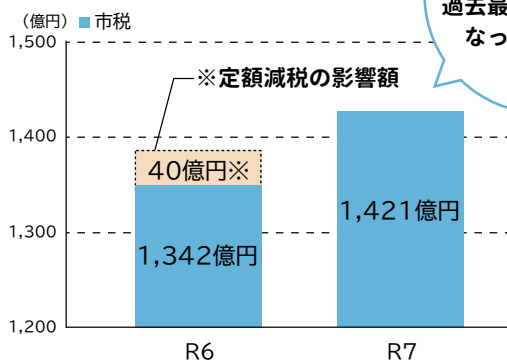


歳出

令和7年度の歳出決算額を目的別に分類すると、福祉のための経費である民生費が39.3%と最も多く続いて教育費が17.6%、土木費が11.6%、総務費が10.4%などとなっています。

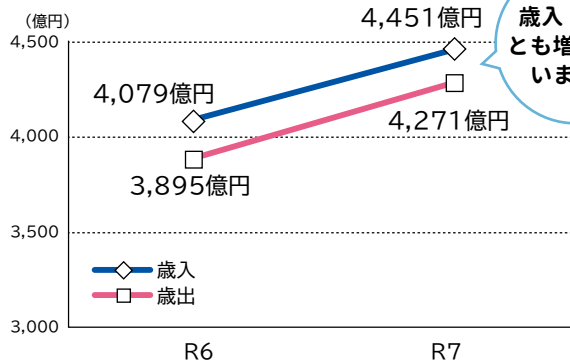


市税収入



令和7年度は
4年連続で
過去最高の収入額と
なっています。

歳入歳出決算額の推移



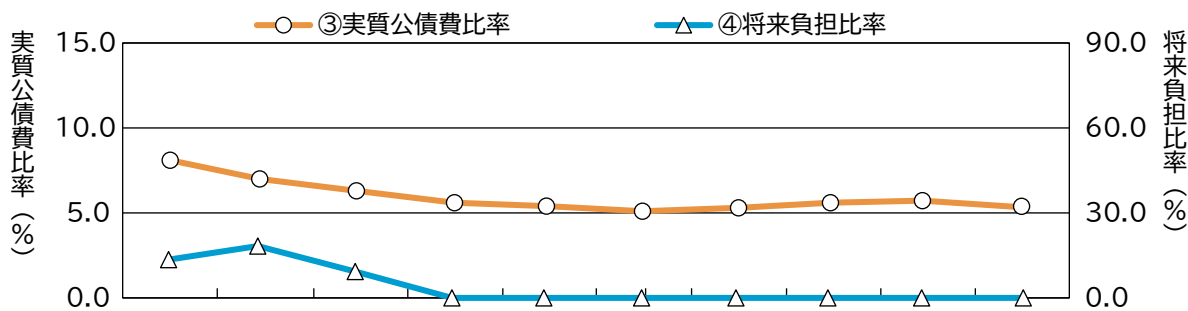
歳入・歳出
とも増加して
います。



健全化判断比率4指標などの推移



「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、財政の健全性に関する比率を公表しており、岡山市は令和7年度決算において健全化判断比率4指標および資金不足比率の全ての基準をクリアしています。



	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
①実質赤字比率	-※1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
②連結実質赤字比率	-※1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
③実質公債費比率	8.1	7.0	6.3	5.6	5.4	5.1	5.3	5.6	5.7	5.4
④将来負担比率	13.5	18.3	9.3	-※2	-	-	-	-	-	-
⑤資金不足比率	-※1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(※1) 実質赤字、連結実質赤字、資金不足額がないため「-」と記載
(※2) R1以降の将来負担比率は、充当可能財源等が将来負担額を上回るため「-」と記載

健全な財政
状況です。

指 標		説 明	早期健全化基準	財政再生基準
健全化判断比率	実質赤字比率	一般会計等を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率	11.25%	20%
	連結実質赤字比率	全会計を対象とした実質赤字額（または資金の不足額）の標準財政規模に対する比率	16.25%	30%
	実質公債費比率	一般会計等が負担する元利償還金および準元利償還金の標準財政規模に対する比率	25%	35%
	将来負担比率	一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率	400%	
資金不足比率		公営企業ごとの資金不足額の事業規模に対する比率	20%※	

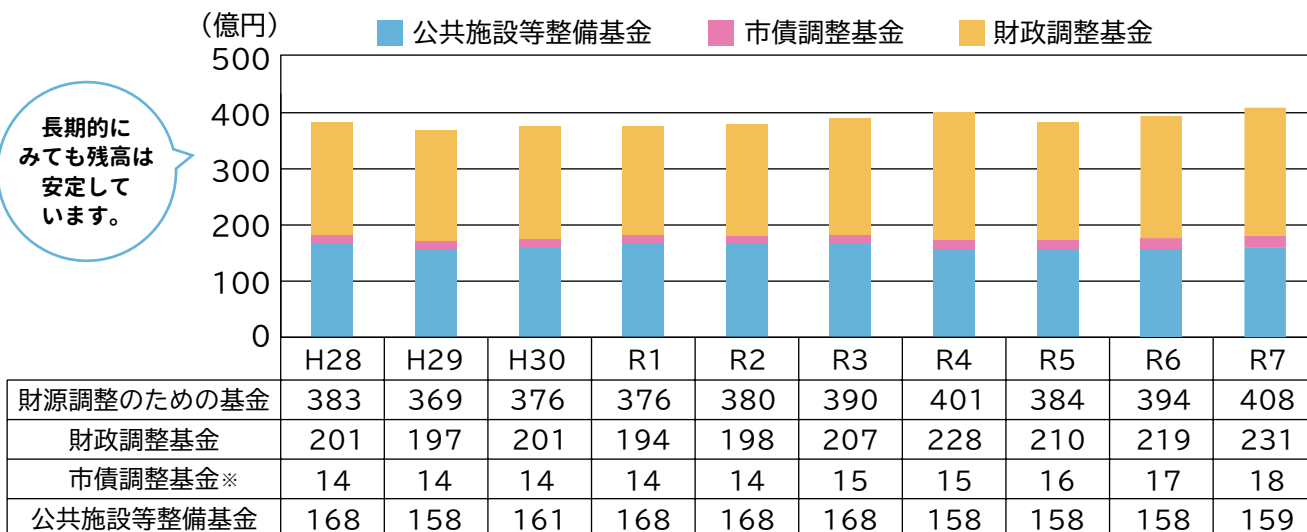
(※) 経営健全化基準の基準値



財源調整のための「基金」残高の推移



令和7年度末基金残高は、取り崩しを行った一方で、令和6年度決算の剰余金積立てを行った結果、408億円となりました。



(※) 臨時財政対策債償還基金費および満期一括償還地方債に係る額を除く



詳細は、HPの「令和7年度決算（案）の概要」、「岡山市の財政状況[第28版]」をご確認ください。



「宝くじ」は身近なまちづくりに役立てられています

県内で販売された宝くじの収益金は、県および市の収入になります。

宝くじは、
岡山市内で
買ってね！

